



くら た かん じ  
**倉田 寛次**

しみんくらぶ  
**市民クラブ**

### 医師不足の解消を

**問** 医師不足は、どこの市町でも大変悩んでいるところであるが、美杉町の伊勢地地区でも、今年6月、地域のために尽力していただいていた医師が、高齢を理由に引退された。

このことにより、美杉町では4つの地区に医師がいなくなったが、津市の対応策は。

また、三重県のへき地医療支援制度の活用についての考え方は。

**答** 現在、美杉町では、週に1回は診療が行われている地域もあるが、医師の高齢化もあり、今後は美杉町全体を捉えた医療のあり方を見据えていかなければならないと考えている。

県で無医地区に指定されれば、へき地医療の支援病院からの巡回診療という支援が受けられるが、医師の確保は簡単なものではなく、美杉地域の医療については、県の力をいただきながら考えていきたい。

現在も竹原の国保診療所では一志病院の力を借りており、寄附講座という形で医師の人件費を津市がこのまま出し続けなければならないのかという問題はあるものの、当面は人の手当てをお願いしたいということ三重県に力を込めて話をしている状況である。

### ●その他の質疑・質問●

- 子宮頸がん予防ワクチンの副反応について
- 新最終処分場の進捗と水処理施設について
- 指定管理者の運営について
- 下之川バイパスの進捗は
- 住民が運営主体のデマンド方式交通に対し補助率増額を考慮しないのか



▲住民主体のデマンド方式交通に対して補助率の見直しを



なか がわ たみ ひで  
**中川 民英**

にほんきょうさんとうつしぎだん  
**日本共産党津市議団**

### 生活保護行政について ケースワーカー増員を

**問** 景気回復が進まない状況で大企業が派遣切り、非正規切りに走っている中、貧困が増大しており、生活保護制度の役割はますます重要になっている。

しかし、手続きや自立支援を担うケースワーカーの人手不足が問題である。一人当たりが担当する世帯の国の標準は80世帯であるが、津市は平均で100世帯、最大120世帯を超えている。相談員とともに増員を求める。

**答** 本年4月の人事異動に伴い、ケースワーカー1名と再任用の相談員1名が増員され、現在、ケースワーカー23名、相談員4名の体制で生活保護業務を行っている。しかし、80世帯に1名という基準からは、6名程不足している状況である。

職員が増員されれば、今よりもきめ細かな訪問や対応が可能となるが、課内全体での応援体制、ケースワーカー間の連携や職場内研修などを行うことで、支障がないよう業務を遂行している。

ケースワーカーの担当世帯数を軽減することで、相手の気持ちに立ったより良い支援ができるという観点からも、来年度の人員の査定において考えるよう指示したい。

### ●その他の質疑・質問●

- 視覚障がい者の外出支援充実について
  - ・タクシー券給付対象の拡大を
  - ・公共の障がい者用トイレ案内の整備を
- 学校図書館司書を増員し適正な配置を
  - ・司書の正規雇用を
  - ・蔵書の整備率向上を
- 空き家、空き地の適切な管理をすすめよ など



▲生い茂った雑草が生活道路ではみ出している空き地